

2022 年度  
部局自己点検・評価報告書  
(評価対象年度：2021 年度)

【HP 掲載用】

新潟薬科大学  
薬学部  
大学院薬学研究科

## 目 次

### 1. まえがき

### 2. 薬学部 自己点検・評価

#### I. 教育活動について

##### I-1. 学生の受入れについて

- (1) 広報活動について
- (2) 入学者選抜・入学試験結果について
- (3) 新入学生の状況について

##### I-2. 学習成果について

- (1) 教育課程の編成・実施について
- (2) 学修成果について
- (3) 授業運営について
- (4) 共用試験・国家試験結果について

##### I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について（学部、研究科共通）

- (1) 学生修学・生活支援について
- (2) キャリア支援について

##### I-4. AP、CP、DP、3 方針の整合性について

#### II. 研究活動について（学部、研究科共通）

#### III. 社会連携・社会貢献活動について（学部、研究科共通）

- III-1. 国際交流について
- III-2. 高大連携について
- III-3. 地域連携について

#### IV. 教員・教員組織について

- IV-1. 教員組織について
- IV-1. FD 活動について（学部、研究科共通）

#### V. 定員・学費の適切性について

### 3. 大学院薬学研究科 自己点検・評価

#### I. 教育活動について

##### I-1. 学生の受入れについて

- I-2. 教育課程、学修成果、授業運営について
- I-3. AP、CP、DP、3 方針の整合性について

#### II. 教員・教員組織について

#### III. 定員・学費の適切性について

### 4. 評定について

## 1. まえがき

大学は、教育研究上の目的の達成に向け、教学マネジメントの観点から、自らの責任で自学の教育・研究における成果を点検・評価することが求められている。教育プログラムの質向上を実現するためには、このような自己点検・評価活動を通して改革・改善に努めることが不可欠である。本報告書は、全学として定めた「学習成果の評価の指針（アセスメント・ポリシー）」に則り、2021年度の薬学部及び薬学研究科の諸活動についての点検・評価結果を学部及び研究科質保証推進委員会において取りまとめたものである。

2021年度の薬学部及び薬学研究科の諸活動についての点検・評価結果では、全22項目のうち、評定Sが1項目、評定Aが10項目、評定Bが11項目であった。全体を通して、社会連携・社会貢献活動については比較的高く評価されたが、その他の活動については約半数の項目が評定Bとされた。コロナ禍で予定していた活動が制限されたことにより低い評定となった項目もあったが、ウィズコロナを意識して最善策を取れるよう努めていくべきと考える。定員充足という現状の大きな課題に対し、定員削減策を講じる予定ではあるが、適切な広報活動を推進するとともに、教育力強化により共用試験・国家試験の合格率向上に向けて一層力を入れていく必要がある。臨床薬学教育研究センター及び薬学教育センターの設置により教育体制を強化したこともあり、共用試験・国家試験の合格率が幾分向上したが、国家試験については私立薬系大学の合格率平均に未だ達していないため、より効果的な教育指導を追求する努力は継続していくべきである。受験生が着目すると思われる国家試験合格率及び入試偏差値を向上させ、適切な資質・能力を持った学生を受け入れ、受け入れた学生に対し、緻密に編成された教育プログラムを提供し、DPに示した資質・能力を獲得させることができるように、各種委員会が目的を共有し、連動して取り組んでいくことが重要である。今回の自己点検・評価活動を通して現状を把握・分析するとともに、課題とされた点については、今後の改善活動に取り組んでいきたい。

2023年1月23日

薬学部長、研究科長

質保証推進委員長、研究科質保証推進委員長

酒巻 利行

## 2. 薬学部 自己点検・評価

## 3. 大学院薬学研究科 自己点検・評価

薬学部及び大学院薬学研究科における、部局自己点検・評価報告書（対象年度：2021年度）の概要は次の通りである。

### I. 教育活動について

#### I-1. 学生の受入れについて

#### V. 定員・学費の適切性について

課題：定員充足（学部）

- 継続的な入学定員の未充足&2022年度入試における入学者減
- オープンキャンパス参加者数、オープンキャンパス参加者のうちの出願者数ともに増加、しかし、入学者数は減少
- 志願者数の減少（2017年度～2022年度）
  - ◆ 学校推薦型選抜試験による志願者数／入学者数は増加（薬学入門講座受講修了者の入学者割合は減少）
  - ◆ 一般選抜試験（個別方式・大学入学共通テスト利用方式）による志願者数の減少
  - ◆ 総合型選抜試験の受験者数なし
- ✓ 薬剤師国家試験合格率の低迷を含む本学の魅力の低下等の内的要因
- ✓ 新潟県内高校の高校生数の減少等の外的要因
- ✓ 定員設定に検討の余地あり
- 高校生や保護者の大学選びに対する優先事項の明確化（アンケート等の解析）→実効性のある広報活動
- 薬剤師国家試験合格率の上昇を含む本学の魅力度向上
- 試験区分ごとの定員及び時期の見直し、高大連携講座の位置付け検討
- 定員削減についての検討（2023年度から削減予定）
- 学費についての検討

課題：定員充足（研究科）

- 入学定員に対する平均充足率は学部よりも低い（2016～2021年度：0.61）
- 学費は低額に設定
- ✓ 定員が3名と少ないため、充足率に与える1名の入学者の影響が大きい。
- 社会人向けの学生募集に向けた広報活動の強化、大学院生の魅力アピール
- 定員は現状維持、学費については増額に向けた検討（2023年度から導入予定）
- 学部としての研究活動の活性化

課題：効果的な入学者選抜＋リメディアル教育の充実（学部）

- 「主体性・多様性・協働性」や「思考力・判断力・表現力」を入学試験で評価するにあたり、その方略として面接を行っているのは学校推薦型選抜試験のみ。
- 1年生の留年率を抑制できていない。
- ✓ 入学後の学力UPができていない、モチベーションの低下
- 多面的評価（面接内容の精査や学校推薦型選抜試験以外の試験区分への面接導入等）の検討
- 入学前教育、プレイスメントテスト、リメディアル教育の連携及び内容の吟味
- 継続したアドバイザー支援

**I-2. 学習成果について**

課題：進級率及び卒業率の向上（学部）

- 卒業率は約 88.9%
- 3年次から4年次と4年次から5年次の進級率が低い
- ✓ 未修得単位の累積、膨大な試験範囲の学力考査、本質的・体系的な理解力不足
- 学修支援＋教育指導・評価＋カリキュラム

課題：学修成果の適切な把握（学部）

- 卒業時アンケートにおける DP に掲げた資質の修得状況は良好
- 改訂ループリックを用いた学修期ごとの学習成果達成度の評価は未実施（計画中）
- 学修期ごとの学習成果達成度の評価の実施&最適化
- Learning Portfolio の整備

課題：授業運営の改善（学部）

- 出席率は良好
- 授業評価アンケートにおける満足度は良好、授業時間外学習時間が少ない
- Teaching Portfolio を運用した学習指導方法の改善

課題：共用試験・薬剤師国家試験の合格率向上（学部）

- 共用試験（CBT・OSCE）の合格率は 100%
- 薬剤師国家試験の新卒合格率は 71.43%、ストレート合格率は 51.3%（ともに前年度より上昇）
- ✓ 本学学生の苦手分野（物理、化学、生物）、必須問題の成績の伸びが悪い
- ✓ 1回目の薬学総括演習Ⅱ単位認定試験成績と薬剤師国家試験結果との高い相関
- CBT 終了時からの早めの薬剤師国家試験に対する意識づけ・対策＋カリキュラム編成
- 外部模擬試験結果に基づいた個別指導
- 薬学総括演習Ⅱ単位認定基準の見直し

課題：教育課程の効果測定（研究科）

- 効果的な教育課程であるか確認する仕組みがない
- 教育課程の分析手段・方法についての検討

### I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について

#### Ⅲ. 社会連携・社会貢献活動について

課題：ウィズコロナ時代の学生支援・国際交流（学部・研究科）

- コロナ禍での活動の制約
- 活動+適切な感染対策、オンライン活用

### I-4. AP、GP、DP、3方針の整合性について

- 学部、大学院ともに整合性あり
- APについて、求める人材をどのように評価・選抜するかの記載が不十分
- APの見直し（本学が求める薬学部生として相応しい「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」をどのようにして評価・選抜するかを学部 AP に盛り込むなど）

## Ⅱ. 研究活動について

課題：研究活動の活性化（学部・研究科）

- 科研費採択率が低下傾向
- 研究時間確保に向けた取り組み

## Ⅳ. 教員・教員組織について

課題：領域ごとの適切な教員組織作り（学部・研究科）

- 大学設置基準上の必要教員数は確保、若手（40歳未満）教員の比率が低い
- 教員の退職等への対応の遅れ
- 教育領域に基づいたバランスの取れた教員組織の構築
- 研究室スペースも考慮した研究室編成の検討

## 4. 評定について

### I. 評定の基準

2021年度の各項目における評定は、以下のSからCの4段階評定とした。

S	卓越した成果があがっている、または特筆すべき取組みを行っている。
A	成果があがっている、または近く確実な成果が見込まれる、もしくは適切な取組みがなされている。
B	十分な成果があがっていない、または取組みが不十分である。
C	全く成果があがっていない、または取組みがなされていない。

## II. 評定一覧

### 薬学部 自己点検・評価

項目名	評定
I. 教育活動について	
I-1. 学生の受入れについて	
(1) 広報活動について	B
(2) 入学者選抜・入学試験結果について	A
(3) 新入学生の状況について	A
I-2. 学習成果について	
(1) 教育課程の編成・実施について	A
(2) 学修成果について	A
(3) 授業運営について	B
(4) 共用試験・国家試験結果について	B
I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について（学部、研究科共通）	
(1) 学生修学・生活支援について	B
(2) キャリア支援について	A
I-4. AP、CP、DP、3方針の整合性について	B
II. 研究活動について（学部、研究科共通）	B
III. 社会連携・社会貢献活動について（学部、研究科共通）	
III-1. 国際交流について	B
III-2. 高大連携について	A
III-3. 地域連携について	S
IV. 教員・教員組織について	
IV-1. 教員組織について	B
IV-2. FD 活動について	B
V. 定員・学費の適切性について	A

### 大学院薬学研究科 自己点検・評価

項目名	評定
I. 教育活動について	
I-1. 学生の受入れについて	A
I-2. 教育課程、学修成果、授業運営について	B
I-3. AP、CP、DP、3方針の整合性について	B
II. 教員・教員組織について	A
III. 定員・学費の適切性について	A